日本保健医療社会学会ニューズレター （No.120） 2022/4/20

目次

１． 第 48 回大会について
２． 理事会報告
３． 定例研究会（関東）報告
４． 定例研究会（関西）報告
５． 看護・ケア研究部会報告
６． 渉外・国際交流活動
７． ニューズレターNo.119 の記事修正について
８． 編集後記

１． 第 48 回大会について

第 48 回日本保健医療社会学会大会[5 月 28 日（土）～29 日（日）]は、学会始まって以来最初の試みとなる対面とオンラインのハイブリッド（ハイフレックス）開催で行います。対面で参加希望の方は、愛媛県松山市にある松山大学の樋又キャンパスまでおいでください。オンライン参加の方は、過去 2 年間同様、Zoom を使って参加してください。すべてのプログラムは、対面でもオンラインでも参加できます。ハイブリッド開催は、私たちにとっても初めての試みであるため、どのようなトラブルが生じるのか予想できない面もあり、ひょっとしたら何かとご不便をおかけすることもあるかと思います。会員のみなさまの暖かいご支援とご理解をお願いいたします。また、感染防止を徹底しながら、対面での懇親会も実施いたします。収容人数を半分にした、パーティション越しの懇談になりますが、瀬戸内海に面した愛媛県のご当地グルメをリーズナブルにお楽しみください。参加登録と参加費・懇親会費の支払いはすべて事前になりますので、大会ホームページから、お早めの参加登録をお願いいたします。

本大会のテーマは「つながりと再生－ウィズコロナの現実を生きる」です。この 2 年間の新型コロナウイルスの感染拡大の状況下において、私たちがどのような経験をしてきたのか、特に医療とケアを中心的な研究テーマとする本学会にとって、私たちひとりひとりの経験を振り返りながら、ウィズコロナの現実を生き抜く知恵を共有する機会にしたいと思います。このテーマに沿って開催校では、コロナ禍の地域でともに生き抜く実践として、公益財団法人正光会御荘（みしょう）診療所所長の長野敏宏氏に教育講演を、次に「エッセンシャル・ワーカー」として注目された医療従事者の感情労働について、日本赤十字看護大学名誉教授の武井麻子氏に大会記念講演をお願いしています。そして、COVID-19 の感染者や医療関係者に対する差別や偏見の防止を呼びかけたシトラスリボン運動の発祥地である松山大学において、感染症のスティグマをめぐる大会記念シンポジウム「ウィズコロナをどう生きるか－感染症のスティグマを乗り越える」を設けました。

このシンポジウムでは、歴史学の観点からハンセン病問題について専修大学の廣川和花氏に、

そして HIV/AIDS については、感染被害者のピアとしての立場から、HIV 感染者に心理社会的支援を長年提供してきた NPO 法人「りょうちゃんず」代表の早坂典生氏と産業医科大学の種田博之氏に、最後にコロナ禍における「生きづらさ」について、自殺のスティグマに焦点を当てた追手門学院大学の山田陽子氏に、それぞれ報告していただきます。この 3 本の報告に対する関西学院大学の佐藤哲彦氏のコメントを口火として、フロアのみなさんから多くのご意見をいただき、ウィズコロナの現実を生き抜く道を共に考える機会にしたいと考えております。大会ホームページをご覧になればわかるように、他にも多くの一般演題／口演と RTD のセッションが同時に開かれております。大会会期中の二日間、対面でもオンラインでも、たくさんの方々のご参加を心よりお待ちしております。

（第 48 回大会長・山田富秋氏[松山大学]）

２． 理事会報告

2022 年 3 月 1 日（火）に 2021 年度第 4 回理事会が開催されました。詳細は以下の通りです。

日時：2022 年 3 月 1 日（火） 10：00～13：00
会場：ZOOM 会議
出席者：小澤会長、戸ヶ里理事、天田理事、伊藤理事、本郷理事、前田理事、田代理事、石川理事、心光理事、山田大会長（第 48 回）、西村大会長（第 49 回）、事務局 平野（記国際文献社）

1. ニューズレター120 号の配信について（心光理事）

心光理事より配布資料の通り、ニューズレター120 号の目次案について確認があり、会員動向は夏に発行するニューズレターに掲載することとなった。原稿締め切りについては 3 月 31 日とし、4 月下旬に発行することとした。

2. 第 48 回大会の予算・進捗状況について（山田第 48 回大会長）

山田第 48 回大会長より配布資料の通り、予算案について報告があった。評議員会、総会に関する費用は学会本体の負担となるとの確認があった。評議員会と総会はハイブリッド開催とすることとし、ハイブリッド開催にかかる費用は学会本体が支払うことが伝えられた。抄録集編集のアルバイト代について、大会がハイブリッド開催となり通常よりも費用がかかることから学会本体にて支出することが提案され、承認された。

3 月 14 日に参加登録が開始となり、大会当日の連絡先は大会実行委員会のメールアドレスを掲載することが伝えられた。

3. 2022 年度大会時評議員会・総会・理事会の議題と資料の作成について（小澤会長・戸ヶ里理事）

戸ヶ里理事より配布資料の通り、評議員の規約案について説明があった。評議員会前にメールで規約案を送付することとした。評議員より意見があった場合は次回理事会にて検討し、次回総会にて承認を得られるよう進めることとなった。

理事会は大会当日に開催せず、5 月上旬から中旬に別途開催することとした。

4. 編集委員会報告（井口理事）

井口理事より配布資料の通り、33 巻 1 号の進捗状況について報告があった。

5. 園田賞（学会奨励賞）候補について（天田理事）

天田理事より配布資料の通り、研究活動理事が選考委員として対応することの経緯説明があり、委員会メンバーの承認依頼があった。園田賞受賞者の候補について木矢　幸孝会員が推薦され、承認された。

6. 定例研究会の報告（天田理事）

天田理事より配布資料の通り、研究活動委員会の報告があった。

3 月 12 日に 48 回大会プレ企画の定例研究会、26 日に看護・ケア研究部会と共催で定例研究会を開催することが伝えられた。後日、会員へメール配信を行うこととした。

7. 看護・ケア研究部会報告（伊藤理事）

伊藤理事より 3 月 2 日に 26 日の定例研究会に向けた打ち合わせを行う予定であることが伝えられた。

8. 渉外・国際交流活動の報告（石川理事）

石川理事より関連する国際学会の情報をアップデートし、適宜、会員へ情報提供を行うことが伝えられた。

9. 2021 年度決算案及び来年度予算案について（戸ヶ里理事）

戸ヶ里理事より配布資料の通り、決算案について報告があった。収入に関しては通常会員の納入率が 85%であること、雑収入に第 47 回大会の補助金返金分と黒字分の寄付が計上されていることの説明があった。支出については書評本の購入を行っていることから編集関連業務の予算が超過する予定であることが伝えられた。

予算案については編集関連業務に書評購入費を計上したこと、次年度は選挙を行う事から選挙関係費用を計上したことが伝えられた。評議員会、総会開催に関する費用を後日、金額を確認したうえで計上することとなった。

10. 社会学系コンソーシアムの報告（戸ヶ里理事）

戸ヶ里理事より配布資料の通り、1 月に開催された社会学系コンソーシアムの評議員会について報告があった。

11. 第 50 回、第 51 回の大会校（大会長）について（小澤会長）

50 回、51 回大会長について、理事による検討を行い、候補にあがった会員へ会長より依頼することとした。

12. 第 49 回大会について（西村第 49 回大会長）

西村第 49 回大会長より配布資料の通り、日程を 2023 年 5 月 27 日、28 日とすることが提案され、承認された。

13. 入退会者の承認（戸ヶ里理事）

戸ヶ里理事より配布資料の通り、新入会 11 名の承認依頼があり、承認された。

14. その他

天田理事より医学教育と社会教育のワーキンググループについて昨年 12 月 27 日に開催し

たとの報告があった。内容について第 49 回大会について報告する予定であることが伝えられた。

15. 次回の理事会日程

5 月上旬から下旬に開催することとし、後日日程調整をすることとなった。

（戸ケ里理事：総務担当）

３． 定例研究会（関東）報告

2021 年度第 2 回関東定例研究会は、看護・ケア部会と共催にて、2022 年 3 月 26 日（土）14:00～17:00、Zoom によるオンライン開催で行いました。詳細は看護・ケア部会の報告をご覧ください。

４． 定例研究会（関西）報告

3 月 12 日（土）14 時 00 分から 16 時 00 分まで、第 48 回大会実行委員会及び大会サポーターが企画して、Google Meet によるオンライン研究会として開催いたしました。最大 27 名が参加しました。

テーマは「新型コロナウイルスと日常生活」とし、今回の大会テーマである「ウィズコロナの現実を生きる」という趣旨に沿って、「コロナ禍の下での暮らしと人生」という視点から、私たち一人ひとりの経験を振り返り、百年後の未来に何を繋ぐことができるのかを、フロアからも参加できるワークショップ形式で意見を交換しました。

司会は第 48 回大会長の山田富秋が行い、最初に話題提供者として実行委員会から、松山大学の石川良子さんのゼミ生 3 名が、このテーマでの調査結果を発表し前半第 1 部の話題提供としました。次に司会を聖カタリナ大学の中村五月さんに交替し、第 2 部の看護実習について、愛媛県立医療技術大学の田中美延里さんが地域看護について、聖カタリナ大学の白柿綾さんが精神看護について現状を報告されました。

内容を簡単に紹介すると、石川ゼミの江藤有花さんが、個別の販売網を持つ米農家にとって影響は少なかったが、JA など大きな購入先に左右されるところは、需要減による販売価格の下落の影響を受けたと発表してくださいました。同じく、上甲真也さんは、高校の吹奏楽部の現状を調査し、感染防止を目的とした練習形態の変化と全国大会がなくなった代替的なイベントの創発について発表されました。最後に橘周平さんが、愛媛県内で最初に新形コロナで死亡した方のお葬式をした葬儀社のインタビューを行い、コロナ禍の中でも、故人への敬意が表現されるような式典を工夫している様子を発表されました。

第 2 部では、田中美延里さんが県内の地域看護実習では、病院外の実習がまったくできなくなった看護領域と違って、ゲートボール中の高齢者に声をかけることで、それほど警戒されずに、高齢者の生活について話をうかがうことができた例を紹介しました。次にこの 2 年間病院での臨地実習がほとんどできなくなった精神看護分野の白柿綾さんが、看護学生の立場に立って、実習前と後、就職前と就職後の心理的な変化を報告しました。こうした変化の背景には、看護学生たちが言葉にならないほどの恐怖や不安を抱えながら、社会の役に立たなくてはならないというプ

レッシャーと闘っている心理があると推測されました。

企画者からの話題提供を受けて、フロアからは第 1 部の橘さんの葬儀社の発表について、さまざまなコメントが出され、この 2 年間の中でお葬式を経験した参加者の経験を共有することができました。また、第 2 部の看護実習のトピックについては、同じ看護教員の立場から、あるいは患者の立場から、看護実習の重要性が指摘され、この間の実習の変化について、さらに注視していく必要があることが確認されました。

この研究例会をひとつのきっかけとして、5 月 28 日（土）～29 日（日）の第 48 回大会では、ウィズコロナの現実を生きる一人ひとりの経験をさらに共有していきたいと考えています。現地あるいはオンラインでの多くのご参加を期待しております。

（第 48 回大会長・山田富秋氏[松山大学]）

５． 看護・ケア研究部会報告

2022 年 3 月 26 日（土）14 時から 17 時 まで、Zoom を用いたオンライン開催にて、研究活動委員会との共催で定例研究会を開催しました。八木絵香さん（大阪大学 CO デザインセンター）に「専門家と市民とのコミュニケーション」と題する報告を行っていただきました。コメンテーターは松繁卓哉さん（国立保健医療科学院）でした。参加者は 48 名でした。

はじめに、大阪大学 CO デザインセンターの八木絵香さんから、「長期化するパンデミック禍における専門家と市民のコミュニケーション」と題してご講演をいただきました。

まず、東日本大震災で起きた福島第一原子力発電所の事故を例に、専門家と政治家の間で問題やそれに対する対策についてどのような見え方のズレやギャップがあるのかや、そうしたものが生じる背景が説明されました。続いて、イギリスで起きた BSE 騒動をめぐる経緯やその後の政府・専門家の対応が紹介され、ある事象（BSE、新型コロナ、ワクチン接種等）について科学者がどこまで、どのように発言すべきかという問題や、科学的知見を政策決定の中でどのように位置づけるかという問題が提示されました。最後に、科学技術コミュニケーションの変遷を辿りながら、八木さんがこれまで行ってきた対話をデザインする取り組みの具体例や、ミニ・パブリックの実践などを紹介いただきました。

八木さんの講演を受けて、国立保健医療科学院の松繁卓哉さんから指定討論をいただきました。医療社会学が専門で、知識や情報の受け手に着目する松繁さんは、保健・医療の分野においても、専門家と素人との間の見え方のギャップがあることや、独特の言い回しをめぐるコミュニケーションの難しさがあることにふれつつ、現代社会において問題解決志向が強まるなか、性急に解決を求めない対話はいかにして可能か、という問いを提示されました。

その後、参加者を交えて、活発な意見交換が行われました。公衆衛生の領域では、ひとびとを、対話の場面で想定されているような自立的「市民」としてではなく、予防や保護の対象である「住民」と位置づける視点があるのではないかといった意見や、パンデミック禍における学生との関わりのなかで、「上から」一律に行動の基準を定めることにより、学生の主体性が育たないもどかしさを感じるといった意見が出されました。また、日本社会のなかに「決めてほしい病」やコスパ感覚が広がり、それが対話を難しくしているのではないかといった意見もありました。八木さ

んや参加者からは、事故を起こした企業と被害者と間で重ねられた対話や、地方自治体での非問題解決型の支援など、比較的うまくいった事例も紹介され、with/after コロナ時代における専門家と市民のコミュニケーションのあり方をめぐって大変有意義な対話の場になりました。

（鷹田佳典氏：看護・ケア研究部会庶務担当）

６． 渉外・国際交流活動

国際交流委員会では、引き続き、関連する分野の国際学会や海外研究者招聘の予定、学会員の参加が可能な講演・セミナー等の情報提供を行っております。皆様からも、ぜひ情報をお寄せください。以下に、前回 NL 後のアップデートも含め、関連する国際学会等の情報をお知らせします。

第 16 回世界生命倫理学会（WCB, World Congress of Bioethics）
国際生命倫理学会主催で、2022 年 7 月 20～22 日にスイスのバーゼルで開催予定。
https://iab2022.org/frontend/index.php

アメリカ社会学会 2022 年大会（第 117 回年次総会）（American Sociological Association）
2022 年 8 月 5～9 日にカリフォルニア州ロサンゼルスで開催予定。
https://www.asanet.org/annual-meeting-2022

欧州医学教育学会（AMEE, The Association for Medical Education in Europe）
2022 年 8 月 27～31 日にフランスのリヨンで開催予定。（オンラインあり）
https://amee.org/conferences/amee-2022

ヘルスケアコミュニケーション国際会議（ICCH, International Conference on Communication in Healthcare）
2022 年 9 月 5～9 日にスコットランドのグラスゴーで開催予定。（オンラインあり）
https://each.international/eachevents/conferences/icch-2022/

第 20 回世界社会学会（ISA, World Congress of Sociology）
2023 年 6 月 25～7 月 1 日にオーストラリアのメルボルンで開催予定。
各種セッションの提案締切 2022 年 5 月 10 日、抄録締切 9 月 30 日。
https://www.isa-sociology.org/en/conferences/world-congress/melbourne-2023

（石川理事：渉外・国際担当）

７． ニューズレターNo.119 の記事修正について

「3. 理事会報告」について、一部、表現上誤解を招く可能性のある記載がみられたため修正しました。修正版につきましては学会ホームページをご覧ください。

８． 編集後記

本学会初のハイブリッド開催での第 48 回大会まであと 1 ヵ月ほどとなり、準備が進んでいます。多くの方が演題登録され多種多様なテーマでの発表が予定されています。第 48 回大会のホームページもご確認いただき、ふるってご参加ください。総会も、現地対面、zoom どちらからでもご参加が可能になっております。

（心光理事：広報担当）

発行：日本保健医療社会学会　　編集：広報担当（心光世津子）
学会事務局：　東京都新宿区山吹町 358-5　アカデミーセンター
jshms-office@bunken.co.jp　　TEL：03-6824-9375